



MURAKAZA NEZA MU RWANDA Vol.5

(Welcome to Rwanda)

JICA 海外協力隊（2022年度1次隊）
ルワンダ共和国 シンゴマ郡 ムラマセクター配属
コミュニティ開発 水の防衛隊
五十嵐貴昭

目次



※アカベンジ（豚肉・甘くないバナナを揚げた料理）

1

修理費が集まらない！

2

水質検査に関する聞き取り調査実施

3

水質検査開始

4

水質検査を通しての葛藤

1. 修理費が集まらない！

前号（第4号）で述べた通り、新たな村（ルチジ村）で井戸修理の啓発を開始しましたが、この村での集金は時間を要しました。当然ながら、各村・個人の収入等によって支払いが難しいタイミングもあります。しかし、1ヶ月経過しても進捗がなく、お金は集まっていないとのこと。住民の修理意欲の低下を考慮し、再度住民に意思確認をしましたが、修理の意志はあるようでした。よって、集金が完了するまで、最低限のサポートをしつつ見届けることにしました。



※ 村会議で改めて集金の啓発



※ 故障した井戸

2. 水質検査に関する聞き取り実施

ルワンダの水の防衛隊グループで、下痢症が疑われる箇所にて水質検査を実施することになりました。そこで、下痢症患者が多い地域を特定するため、ムラマセクター事務所の近くにあるヘルスセンター（診療所）に聞き取り調査を行いました。しかし、こちらのヘルスセンターでは電子カルテ等の記録はないため、下痢症患者の出所はわかりません。そこで、ンゴマ郡庁の保健担当へ伺ったところ、ムゲセラセクター地域は、多くの住民が湖を水源としているので下痢症患者が多いことを知ることができました。

3. 水質検査開始

ムゲセラセクターに行き、ヘルスセンターへ挨拶をすることに。このヘルスセンターのスタッフも、この地区の下痢患者数が多い問題を把握していました。また、私達の水質検査に興味があるとのことで、私達の活動に同行していただきました。実際に検査をするとCOD（水に溶けている汚れ）という項目のみ基準値を超えていましたが、病原性大腸菌は見つからなかったため、飲水が下痢の直接的な原因とは言えないことがわかりました。



※ ヘルスセンターへの挨拶



※住民と一緒に水質検査を実施

4. 水質検査を通しての葛藤

今回の水質検査で病原性の大腸菌は検出されなかったものの、濁度が基準より高い水を使用し、大腸菌の患者が多い事実は変わりません。そこで、念の為煮沸消毒をしてから水を飲むように提案しました。しかし、多くの住民から

「薪代は高価（目安:2回の料理で約100円）なので、毎回煮沸をすることはできない」

「ヘルスセンターでの診療は安価（1回約20円）なので下痢になったら診療所に行けば良い」

とのこと。住民の多くは安定した収入源がないことを考慮すると、下痢にかかった時にその都度治療したほうが、煮沸消毒で下痢を予防するよりも安価であることから、住民の意見も理解できます。収入がほとんどない時期は、煮沸消毒をするのは妙案とはいえず、むしろ彼らの生活を苦しめる可能性が高いです。

このやり取りをしている際に、私達は一般的には正しいと言われている情報を提案できますが、必ずしもそれらが正解ではなく、現場に出向き、自ら観察・聞き取りを行った上で判断することが、国際協力の世界では非常に大切であることを改めて痛感しました。